

5組仲よし学級 生活単元学習 学習指導案

1 単元名 「学習発表会を成功させよう」

2 単元の目標

- ・学習発表会の発表の仕方について自分で意見や考えをもつ。
- ・自分の意見や考えを、タブレットPCを操作しながら表したり、発表したりする。
- ・友達の発表を聞き、考えを深める。
- ・進んで学習発表会の練習に取り組む。

3 単元計画

	学習内容・時	ICT
1	学習グループに分かれて、活動内容を確認する。(第1時)	
2 本時	学習グループに分かれて、学習発表会の発表の仕方について話し合う。(第2時)	
3	学習グループに分かれて、全体練習・部分練習をする。(第3時～第16時)	
4	学習発表会リハーサル・本番(第18時・第19時)	
5	学習発表会の振り返りをしよう。(第20時)	

4 「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

(1) 指導内容の「系統性」

本学園の特徴として、他学級や異学年のほか、中学部や地域との交流活動が多い点が挙げられる。この点を踏まえ生活単元学習では、交流を通して自己表現能力を身に付けることを重点的に指導してきた。

昨年度は、自立の視点から、買い物学習を本学級の活動の柱に据え、お店でのやり取りを振り返りながら自分自身の言動や振る舞いの改善を図ってきた。タブレットPCの画面に提示した写真を見て、説明する言葉や文を考えたり、動画を見て、発表の仕方や自らの言動や振る舞いを振り返ったりすることで、場に応じて自己表現する能力を高めてきた。

中学部では、「相手の話に关心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ」学習に取り組んでいる。それを踏まえ、小学部では、話し合う活動において、「自分の考えをもつ」「相手の話に关心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする」活動に取り組む。

既習事項の確認

- ・タブレットPCを使い、カメラの使い方やタッチペンで描き表す方法を確かめよう。
- ・タブレットPCアプリ「ロイロノート」の操作の仕方を確かめよう。
- ・発表をしたり、話を聞いたりする時の姿勢について、大切なことを確かめよう。

(2) 指導法の「連続性」

本学級では、障害特性や発達段階、生活経験を踏まえて習熟度別に学習グループを編成し、実態を考慮して手立てや支援を図りながら指導を行っている。言葉だけでの指導では理解が困難であるため、大切な情報をキーワードにしたり、絵や図にしたりして提示するなど、視覚化させて情報を補いながら指導を進める必要がある。

学習活動において、写真を画面に提示したり、拡大や描き込んだりすることができるタブレットPCは、伝えたいことを視覚的に表現するために、有効である。本学園では、中学部までの9年間を見通して、段階的に様々な操作技能の定着を図っている。

① つまづきと指導の工夫

- ・自分の意見や考えを表現するための手立てとして、「○」や「×」の記号をタブレット画面に自分で描き、一斉画面で共有できるようにする。(Aグループ)
- ・考えたポーズや音楽を、タブレットのカメラ機能を使って記録し、提示した写真の中で強調したい部分を拡大したり、友達の考えと比較できるように、複数並列させた写真を拡大したりして、友達の考えの良さを見つけるようにする。また、二つの案から選べるようにする。(Bグループ・Cグループ)

② きちんと身に付けさせておく内容・学びのつながり

- ・話し合う活動において、自分の考えと友達の考えを比べたり、二つの考えから選んだりすることに慣れる。
- ・ICTの操作として、タブレットPCのタッチペン機能やカメラ機能の操作の仕方を習得する。
- ・タブレットPCアプリ「ロイロノート」の操作の仕方を習得する。

5 本時(20時間扱いの第2時間目)

(1) 本時のねらい

- ・学習発表会の発表の仕方について自分で意見や考えをもつことができる。
- ・友達の発表と自分の意見や考えを比べて、考えを深めることができる。

(2) ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い合わせ
学習活動	見通しをもつ	自分の思いや考えと結び付ける	互いの考えを比較する よさを共有する	振り返って次へつなげる
タブレットPC				

(3) 展開

学習内容・活動			・指導のポイント ★評価		
1 現段階での学習発表会の流れを確認する。			<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、既習事項を確認する。 ・話し合う内容を確認する。 		
2 本時のめあてを知る。			がくしゅうははっぴょうかいの はっぴょうの しかたについて はなしあおう		
3 本時の流れを確認する。(仲よし学級OS)			<ul style="list-style-type: none"> ・学習グループに分かれる。 		
Aグループ	Bグループ	Cグループ	Aグループ	Bグループ	Cグループ
パネルの掲示	ポーズ	音楽	パネルの掲示	ポーズ	音楽
4 自分の考えをもつ。			<ul style="list-style-type: none"> ・画像を画面でゆっくり再生し、じっくり画像を見たり、拡大したりして、それぞれの案のよさを見つけやすくする。 ・本時までに出てきたポーズから2つに絞っておき、動きの手本を示す。 ・音楽を各自が繰り返し聴けるようにする。 		
・話し合う内容を確認する。	・話し合う内容を確認する。	・話し合う内容を確認する。			
・二案のよいところを紹介する。	・それぞれのよいところを紹介する	・2つの音楽を聴き比べる。			
5 話し合い、考えをまとめる。					

<ul style="list-style-type: none"> ・好きな画像を選び、タブレット画面に丸印を付ける。 ・選んだ案の画像をロイロノートで送る。 ・友達の考えを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をロイロノートで送る ・それぞれのよいところを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をロイロノートで送る。 ・話し合って考えをまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの案の画像をタブレット画面に提示し、どちらがよいか選びやすくする。 <p>★よいと思う案を自分で選ぶことができたか。</p> <p>★友達の発表に 관심をもち、聞くことができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に意見の違いが分かるように背景の色を変える。 <p>★自分の意見をもつことができたか。</p> <p>★相手の意見を聞き、確かめることができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に意見の違いが分かるように背景の色を変える。 <p>★自分の意見を発表することができたか。</p> <p>★友達の意見を聞いて、考えを深めることができたか。</p>
6 話し合いで決まった内容を共通理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの話し合いの成果を共通理解する。 <p style="text-align: right;"><問い合わせ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して活動の模様を振り返る。 ・次時の活動内容を知り、興味をもつ。 			

特別支援学級 国語科学習指導案

1 単元名

討論会をしよう 「自分の立場をはっきりさせ、他の人の意見を聞く」

2 単元計画

時	学習内容	ICT
1	討論会について知る。 自分の立場（意見）を考える。	 資料提示
2 3	自分の立場（意見）をはっきりさせる。 実体験をもとに理由を考える。	 タブレットPC
4 (補) 5	自分の立場（意見）をはっきりさせて、実体験をもとに理由を考える。 他の人の意見を聞く。	

3 「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

(1) 指導内容の「系統性」

本学園の特徴として、他学級や小学部、地域との交流活動が多い点が挙げられる。この点を踏まえ各教科を通して、自己表現能力を身に付けることを重点的に指導してきた。各教科の中でも国語は、言語能力を育成する中心的な役割を担う。そのため、児童生徒の発達段階に応じて、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を高めていく活動を取り入れている。

小学部では、聞くこと・話すことの分野で「相手の話に关心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする」活動に取り組む。そして、中学部の「相手の話に关心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ」学習へとつなげている。

(2) 指導法の「連続性」

- ①本学級では、障害特性や発達段階、生活経験を踏まえて習熟度別に学習グループを編成し、実態を考慮して手だけで支援を図りながら指導を行っている。言葉だけでの指導では理解が困難であるため、大切な情報をキーワードにしたり、絵や図にしたりして提示するなど、視覚化させて情報を補いながら指導を進める必要がある。
- ②学習活動において、写真を画面に提示したり、拡大や描き込んだりすることができるタブレットPCは、伝えたことを視覚的に表現するために、有効である。本学園では、中学部までの9年間を見通して、段階的に様々な操作技能の定着を図っている。
- ③話し合い活動を行う際に、活動の前にまず個人の考えをもたせることにより、より多角的に考えられるようになる。
- ④授業におけるICT活用をクラス全員の立場や理由を可視化するための道具として位置付ける。そして、自分の考えを書く活動や振り返りを行う際、考えるための手立てとしてタブレットPCを活用する。

4 本時（5時間扱いの4時間目）

（1）ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い合わせ
学習活動	見通しをもつ	自分の立場を明確にする	互いの考えを比較する	自己の変容に気付く
タブレットPC				

（2）展開

学習内容・活動	・指導のポイント ★評価
1 前時を振り返り、本時のめあてを知る。 ①自分の立場をはっきりさせる。 ②実体験をもとに理由を考える。 ③他の人の意見を聞く。	・前時で確認をした討論会のポイントを振り返らせ、話し合いの中での自分の立場を明確にし、理由を説明できるようにする。 ・①～③の順番は生徒によって異なるので、順番通りに全員いかないことを認識しておく。
2 「〇〇の秋といえば、読書よりスポーツの秋である。」という議題を確認する。	・秋の良さを考えてから、今回の議題について確認する。
3 ロイロノートを使って、賛成・反対の意見を送信する。	・賛成（スポーツ）の場合は背景を白色、反対（読書）の場合は黒色にするよう伝える。 ★①自分の立場を明確にする。 ・選んだ意見の理由を、実体験を振り返らせて、書き込ませる。背景と違う色で書かせる。 ★②実体験をもとに理由を考える。
4 賛成（スポーツ）派と反対（読書）派の意見を聞き合う。	・違う立場の意見を聞いて、意見が変わった場合は、書き換えてよいことを伝える。 ・話し合いの途中で適宜一斉表示の画面をキャプチャーし、議論がどのように進んでいったか（賛成・反対の移り変わり）を記録する。 ・話し合いが進むにつれて、2色では立場が示せないことも気が付かせ、別の色を使うなどして自分の立場をクラス全体に共有させる。
5 賛成（スポーツ）・反対（読書）の移り変わりの記録を読んで、討論会を振り返る。	・タブレットを参考にしながら、他の人の意見を聞いて思考したことで、自分の考えが変容していったことを気付かせる。<問い合わせ> ★③深まった自分の考えや最初と変わった自分の考えについて振り返ることで、他の人の意見を聞いて思考できたことに気付く。